

## AI アドバイザリー・ボード（準備会合）議事概要

### 1. 日時

令和2年7月1日（水）11:00～11:40

### 2. 場所

中央合同庁舎8号館407-2会議室（一部、ウェブ開催）

### 3. 出席者

委員長	黒川 清	政策研究大学院大学名誉教授
委員	安西 祐一郎	内閣府 AI 戦略実行会議座長、日本学術振興会顧問
	永井 良三	自治医科大学学長
	山中 伸弥	京都大学 iPS 細胞研究所長・教授

### 4. 議事概要

#### <西村国務大臣挨拶>

本日は、お忙しい中、アドバイザリー・ボード準備会合にご出席いただき、感謝申し上げます。

今後想定される感染拡大の第2波に備え、大きな流行を収束させてきた経験と新たな知見を踏まえ、対策をより進化させていきたいと考えている。対策をより効果的なものとしていくため、これまで行ってきた三密対策、外出自粛、休業要請等の様々な対策について、それぞれどのような効果を持ったのかについて分析を行うこと、また、その前提となったSIRモデルについても検証を行うことが重要であると考えている。

こうした分析に当たっては、全国の人工知能や研究者のネットワークを使い、またスーパーコンピュータの富岳や人工知能を使ったシミュレーションを通じて、これまで行ってきた様々な対策について効果の分析を行い、より効果的な対策について検討していくこととしている。

その上で、皆様方には、大所高所から科学的な見地に基づいて、言わば第三者的な視点で、忌憚のない評価やご意見をいただきたいと考えている。本日は、準備会合として、このような考え方の背景、全体概要、今後の方針等について、闊達なご議論をいただきたい。

皆様のご意見を踏まえながら、日本の英知や技術力を結集して、今後のコロナ対策を進化させていきたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

#### <意見交換>

（黒川委員長）パンデミックとなり、世界的 이슈となった。インターネットを通じて世界各国で何をやっているかがわかる時代であり、各国のより良い政策を取り入れていくべき。世界に対して（日本も）英語で発信していくべき。第二波が来るかもしれないな

か、今までの対応等を AI 等でどう評価し、今後に活かせるかが重要。

(永井委員) 専門家は信頼されるべきだが、一方で、トランスサイエンスであり専門家だけでは難しい問題がたくさんある。非専門家の感覚が重要。専門家だけではない議論を。

(安西委員) AI シミュレーションは適用範囲が広いが、特定のクラスターの発生などは一般的なシミュレーションでは見えてこない。第2波を想定すれば、医療の現場で資源や人材が逼迫することはないか、このようリソースの最適化も検討すべきではないか。また、これまで進んでいないデータ連携の実現にも期待。

(山中委員) パンデミックについて世界各国が対応しているが、我が国の対策については注目が集まっている。主要国の中で日本の対応がどうだったのか、国際比較の観点も取り入れながら、評価を行うこともとても重要。世界各国は大量 PCR 検査・隔離、ロックダウンで対応しているが、日本は両方とも他国程は行っていない中で第一波をある程度抑制することができた。世界の人は日本の対策とその効果を知りたがっている。

(黒川委員長) 日本では亡くなる人が少なく、ミステリアスな部分がある。「よかった」だけでは意味がなく、ファクトとしてわかるようにしないといけない。社会、世界とのデータのシェアリングが大事。

(安西委員) いろいろなデータがあるが、連携しようと思っても、なかなか出してこれない。自治体の壁もある。データフォーマットも違う。出そうとしてもなかなかコネクトできない。そういったことも見てくれるといい。

(黒川委員長) 世界がそれぞれのやり方で考えている中、日本は注目されている。このような会議についても内容を英語のミニッツとして発信していくべきではないか。コロナ対策大臣を指名したことは大変良いことだった、このような取組みを英語で発信していると海外からもアイデアをもらえる。

(西村大臣) 大きな流行をどうして抑えられたのか、専門家の方々とも連携しつつ、海外に向けて情報発信をやっていきたい。発信する中で海外の知見も得ながらやっていきたい。

非常事態宣言はもうやってほしくないという方も多い。1回目の大きな流行では、日本は欧米のようなロックダウンはせず、国民の協力をいただき抑えることができたが、次の大きな波を発生させないように、データでしっかり分析してやっていきたい。

感染症の専門家はもちろんのこと、幅広い分野の先生方にアドバイスをいただきつつ、色々な視点からこれまでの経験を活かして次に備えていきたい。PCR についても戦略的にやっていくことが必要。様々な視点、大所高所からご意見をいただきたい。

(永井委員) これからの医療体制で公的病院の役割を考える必要がある。整理統合の対象になりつつあるが、コロナをきっかけに、どういうときにどういう役割を担うかを考えてほしい。コロナ対策の専門病院になるべきだという意見もある一方、それでは運営できないという意見もある。特に自治体病院の在り方をこの議論のなかで検討してもらおうとありがたい。前線に立つのは自治体病院。そのあたりを配慮してほしい。

(山中委員) 大阪でもコロナ専用病院（十三病院）があるが、多くの患者が転院しなければならなかった。医療従事者、患者にかなりのストレスがかかり、病院運営が成り立たない状況。しかし第二波に備えて体制を維持する必要もある。対策が大切。

(黒川委員長) 公的な病院の役割と私的な病院の役割をそれぞれ考える必要もあるのではない  
か。

(安西委員) 医療崩壊を防ぐためのエビデンスベースのやり方が必要。全国の民間病院、自治  
体の病院もそうですが、大変さを踏まえた対応策の検討が必要。

(黒川委員長) コロナ患者が入院しているとわかるとその病院の他の患者が不安になってしま  
う状況もあるので、配慮が必要。

(樽見内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長) 厚労省でもどう対応するか、患者が  
どれだけ増え、病床が足りるのかどうかのシミュレーションをしている。厚労省にも  
(研究成果等は) 伝えたい。

(黒川委員長) 看護師など医療の最前線にいる人や介護施設の職員はリスクが高いので、そこ  
のところもどうするか。

以上